

死後の世界 第一部 死とは何か 第1章 人の構造 ②

この学び全体のアウトラインと本日の内容

- 第一部 死とは何か
 - 第1章 人の構造
 - 第2章 死についての聖書的理解
 - 第3章 非物質的部分【霊魂】の不滅
- 第二部 人は死んだら、どこへ行くのか
 - 第1章 肉体の死後、人の霊魂はどこへ行くのか
 - 第2章 復活までの中間的状态
- 第三部 死者の復活
 - 第1章 教会の携挙【新約時代の信者の復活】
 - 第2章 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活】
 - 第3章 メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換】
 - 第4章 王国の後【不信者の（第二の）復活、不信者は第二の死へ】
- 第四部 新しい天と新しい地での永遠の生活

死後の世界について理解するためには、まず「死」とは何か、を知らねばなりません。そのことを学ぶのが第一部です。

第一部の第1章では、人の構造を見ます。人は、大きくは二つ、物質的部分と非物質的部分とから成ります。物質的部分とは「からだ」です。非物質的部分には、魂や霊など6つの要素があり、これに罪の性質が加わって、全部で7つの要素から成ります。福岡集会では、日本人にわかりやすいように、非物質的部分全体を指すときには「霊魂（れいこん）」と呼ぶことにします。

第2章では、肉体の死とは体から霊魂が離れること、第3章では、霊魂はなくならないで、一人ひとり意識を持続し、新しい体を受けるときを待っている、といったことを学びます。

第二部は、肉体の死から復活までの間、霊魂はどこで、どのような状態にあるか、です。

第三部は、死者の復活です。信者の復活は、幸いなる第一の復活とも呼ばれます。不信者も、時期は後になりますが、復活します。ただし、これは恐るべき第二の復活です。その行先は「火の池」、永遠の苦しみの場所です。聖書ではこれを、「永遠の滅び」、また「第二の死」と言います。信者には第二の死はありません。

第四部は、私たち信者の最終的な行先、新しい天と新しい地です。

本日は、第一部 第1章 「人の構造」の2回目です。前回は、人の起原、構造、その継承、物質的部分【からだ】についての7つの用語、そして非物質的部分についてその全体像を説明しました。今回から、非物質的部分の7つの要素をそれぞれ詳しく見ていきます。本日は、魂（たましい）と霊（れい）です。

前回の内容から、非物質的部分の全体像について復習します

1. 非物質的部分の7つの要素 注意：聖書の翻訳では別の英語・日本語のことがあります

	日本語	英語	ヘブル語	ギリシア語
1	魂	Soul	ネフェシュ	プシュケイ
2	霊	Spirit	ルアハ	プニューマ
3	心	Heart	レブ	カルディア
7	肉	Flesh	バサル	サルクス
4	思考	Mind	(レブ)	ノウス、フェロネマ
5	意志	Will	ラツオン	テレイマ
6	良心	Conscience	(レブ)	スネイデシス

2. 翻訳上の注意点

- (1) 聖書原文のヘブル語やギリシア語が、それぞれひとつの英語や日本語に統一して翻訳されているわけではない。
- (2) 原語自体が広い意味を持っているので、翻訳者の解釈も含めて訳語が選択されている。

(3) 表1番の☐ネフェシュを例に見ると、原文と日本語（新改訳聖書）の関係は

- ① 創2:7 生きているネフェシュ →生きもの
- ② 創12:13 私のネフェシュ →私
- ③ 創17:14 かのネフェシュ →そのような者
- ④ 創19:20 私のネフェシュ →私のいのち
- ⑤ 創27:4 私のネフェシュ →私自身

(4) ネフェシュの意味

- ① 創2:7を見ると、人が最初に造られたとき、人は「生きているネフェシュ」となった。ネフェシュは、息をする生物（動物など）を指すが、身体的にも精神的にもいろいろな意味で使われる。身体的な意味では「体」「人物」「生命」、精神的な意味では「魂」「自分のもの」「自身」など。
- ② ネフェシュが「体」「人物」「生命」を意味するのは、ネフェシュがあつてはじめて、土の器であるからだが生きて動くからである。命の実体はネフェシュである。
- ③ ネフェシュは、創2:7では、人の非物質的部分の6つの要素を代表して使われている。人が最初に造られたときに、ネフェシュだけでなく、他の5つの要素も含めて、人の非物質的部分が造られた。

3. 「肉」について

- (1) 「肉」は、物質的部分である「からだ」を指す場合と、非物質的部分の要素を指す場合がある。
- (2) 非物質的部分の要素としての「肉」は、他の6つの要素とは次の点で異なる。
 - ① 創2:7で人が最初に造られたときには、人の中に「肉」は、なかった。

- ② アダムの墮落によって、罪の性質が人の中に入って来た。聖書は、この罪の性質を「肉」と表現する。
- ③ 肉は他の6つの要素すべてに影響を及ぼしている。表では7つの要素の中央に位置づけた。
- ④ 信者になると、肉以外の6つの要素は新しくされる。しかし、肉は新しくされる対象ではない。
- ⑤ 信者が死ぬとき、あるいは生きていて携挙にあずかる信者であれば変換のときに、肉は完全に消去される。

本日の内容

魂 (たましい)

ヘネフェシュ ギプシュケイ は、16通りの使われ方をしている

1. 魂は、それが宿っていた体や地上生活との関連性を持つ (黙 6 : 9、黙 20 : 4)
2. 一人ひとりの個人的な生活の基盤である (エレ 31 : 25、I ペテ 2 : 11)
3. いのちの息である。それが離れると体は死ぬ (創 35 : 18、詩 16 : 10、イザ 38 : 17)
4. いのちの霊である。そのいのちは人の体において具体的に現れている (出 21 : 23 「いのち」、ヨブ 31 : 39 「いのち」)
5. あらゆる活動の主体である (申 4 : 29 「精神を尽くし」、詩 42 : 2)
6. いのちを持つ個体そのものである (創 2 : 7 「生きているネフェシュ」、創 14 : 21 「人々は私に返し」、創 46 : 26~27 「~者、子ら」、民 31 : 19 「人を殺した者」、申 27 : 25 「人を打ち殺して」)
7. 精神的活動の中心である (レビ 26 : 11 「わたしのネフェシュはあなたがたを」、ヨブ 30 : 25、雅歌 1 : 7 「私のネフェシュが愛している人」)
8. 神を愛する能力を持っている (マタ 22 : 37 「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」)
9. 魂は見張る必要がある (ヘブ 13 : 17)
10. 肉が欲する行動に対して抵抗することができる (I ペテ 2 : 11)
11. 魂と霊とは多くの分野で重なり合うが、霊が天や神との関係にウェイトがあるのに対し、魂は地上や肉体との関係が強調される。よって、「魂的な人」と言うと、霊的に救いを受けていない人を意味する (I コリ 2 : 14 「プシュキコスな人は」、ユダ 19)
12. 「魂的な体」とは、復活を受けていない体を意味する (I コリ 15 : 44 「プシュキコснаからだ」)
13. 魂は、聖化の対象である (I テサ 5 : 23)
14. 神をあがめる能力がある (ルカ 1 : 46)
15. 神のことばによって明るみに引き出される必要がある (ヘブル 4 : 12)
16. メシアの犠牲において差し出された (ヨハ 10 : 15 「わたしは羊のために、わたしのいのちを捨てます」)

霊 (れい)

ヘ ルアハ ギ プニューマ は、16通り (注) の使われ方をしている

1. 証しする、確証を与える、といった、より高次元の活動に関係する (ロマ 8 : 16)
2. いのちの根源である (ルカ 23 : 46、使 7 : 59、I コリ 5 : 5)
3. すべての人が霊を持っている (I コリ 2 : 11)。霊が離れると、からだは死ぬ (ヤコブ 2 : 26 「たましい (原文は、プニューマ) を離れたからだが生んだものである」)
4. 霊は汚され得る (II コリ 7 : 1)
5. 霊の中には、感情がある
 - (1) 創 45 : 27 「ヤコブの霊は元気づいた」
 - (2) 民 5 : 14 「ねたみの心 (原文は、霊)」
 - (3) 詩 51 : 17 「神へのいけにえは砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。」
 - (4) 詩 143 : 4 「私の霊は私のうちで衰え果て、私の心は私のうちでこわばりました」
 - (5) 箴言 15 : 13 「心に喜びがあれば、顔色を良くする。心に憂いがあれば気 (原文は、ルアハ) はふさぐ」
 - (6) 伝道 7 : 8 「忍耐はうぬぼれにまさる (原文は、忍耐の霊は誇り高い霊にまさる)」
 - (7) マタ 5 : 3 「心 (原文は、プニューマ) の貧しい者は幸いです」
 - (8) ロマ 8 : 15
 - ① あなたがたは受けていない、奴隷の霊を。それは再び恐れさせる。
 - ② あなたがたは受けた、養子の霊を。それによって我らは叫ぶ、アバ、父と。
 - (9) ロマ 11 : 8 「神は彼らに鈍い心 (原文は、プニューマ) と見えない目と聞こえない耳を与えられた
 - (10) ガラ 6 : 1 「御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい」
→ 「霊的な人であるあなたがたは、柔和な霊でその人を正してあげなさい。」
 - (11) II テモ 1 : 7 「おくびょうな霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です」
6. 霊は、いのちと死、共にそれらの源である (ヨブ 27 : 3、33 : 4、34 : 14)
7. 霊は、人の内側のいのちである (マタ 5 : 3、I コリ 2 : 11)
8. 霊は、神に由来するいのちである (詩 51 : 10、イザ 26 : 9)
9. 霊は、「新しい性質」と同じ意味のことばとして使われる (ロマ 8 : 6、10)
10. 信者の霊は、霊的ないけにえをささげる (I ペテ 2 : 5)。それは、賛美のいけにえである (ヘブ 13 : 5)。よって、信者の霊が賛美をする→「霊的な歌」(コロ 3 : 16)
11. 霊的な人とは、神と正しい関係にある人である (I コリ 2 : 15)
12. 霊的な体とは、復活を受けた体を意味する (I コリ 15 : 44)
13. 霊は、聖化の対象である (I テサ 5 : 23)
14. 神をあがめる能力がある (ルカ 1 : 46)
15. 神のことばによって明るみに引き出される必要がある (ヘブル 4 : 12)
16. メシアの犠牲において差し出された (ヨハ 19 : 30)

(注) フルクテンbaum博士の原著では、17通り。4番目の「霊は汚され得る」と15番目の「霊は汚れた行為に関与する可能性がある」、ともにIIコリ7:1を挙げていたので、4番目に統一した。

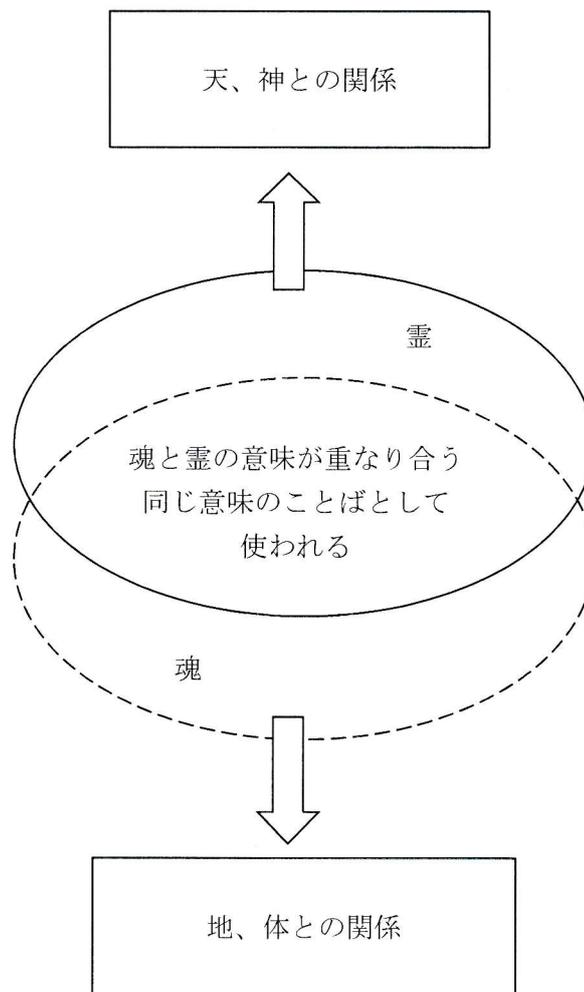
魂と霊についてのまとめ

1. 魂と霊との共通点

- (1) 共に、「非物質的な、かつ個人的な存在」である。
- (2) それぞれに 16 通りの使われ方がされているが、互いに重なり合う用法がある。
- (3) 並立構文（同じ内容を別のことばで繰り返す）の中で、同義語として両者が使用されることもある。
 - ① ルカ 1 : 46～47
 - ② 創 49 : 6 「わがたましいよ。彼らの仲間に加わるな。わが心（原文は、霊）よ。彼らのつどいに連なるな。」

2. 魂と霊との相違点

- (1) 魂はその人の体や地上的環境との関連が強調されるのに対し、霊は神との関係において使用されることがある。
- (2) 新約聖書では、「魂的な人」に対し「霊的な人」、「魂的な体」に対し「霊的な体」、といった対照的な使われ方をする。



(参考資料 みやま集会 2018年6月9日 「栄化」より)

I コリ 15 : 40 の「天上のからだ」は、原文では「天のからだたち」と複数形になっていて、41 節の太陽、月、星々を指しています。星を観察することを「天体観測」とも言うように、これらは一般的にも「天体」と呼ばれます。

「死者はどのようにしてよみがえるのか、どのようなからだで来るのか=死者の復活などあり得ない」(I コリ 15 : 35) という主張をする人に対して、使徒パウロは、36 節「愚かな人だ」とし、以下 49 節まで次のように復活について説明します (一部は直訳)。

箇所	対比：復活前の体	対比：復活の体
36 37 38	(例えを用いて) あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やその他の穀物の種粒です。	しかし、神は、みこころに従って、それに体を与え、 <u>おのおのの種にそれぞれの体をお与えになります。</u>
39 40 41	(おのおのにそれぞれの体があることの説明) すべての肉が同じではなく、 <u>人間の肉</u> もあり、 <u>獣の肉</u> もあり、 <u>鳥の肉</u> もあり、 <u>魚の肉</u> もあります。また、 <u>天のからだたち</u> (太陽、月、星々の天体) もあり、 <u>地のからだたち</u> もあります。・・・(創世記 1 : 26→24→20→14) 天のからだたちの栄光と地のからだたちの栄光とは異なっています。	太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。
42 43 44a	死者の復活も <u>これ</u> と同じです。 朽ちるもので蒔かれ、 卑しいもので蒔かれ、 弱いもので蒔かれ、 <u>魂的な体</u> で蒔かれ、	朽ちないものによみがえらされ、 栄光あるものによみがえらされ 強いものによみがえらされ、 <u>霊的な体</u> によみがえらされるのです。
44b 45 46 47 48	(霊的な体があることの説明) 魂的な体があるのですから、霊的な体もあるのです。 聖書に「最初の人アダムは <u>生ける魂</u> となった」(創 2 : 7) と書いてありますが、最後のアダムは、 <u>生かす (いのちを与える) 霊</u> となりました。 最初にあったものは <u>魂的なもの</u> であり、 <u>霊的なもの</u> ではありません。霊的なものはあとです。 第一の人は地から出て、土から造られた者ですが、第二の人は天から出た主です	土で造られた者たちはみな、この土で造られた者に似ており、 天の者たちはみな、この天から出た方に似ているのです。
49 結論	私たちは土で造られた者のかたちを着たように、	天の方のかたちを着るであろう。(ロマ 8 : 29 「御子のかたちと同じ姿」)